



祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第82号

てんまてんじん



長浜市曳山博物館の視察	3 頁
天神祭諸神事のようす	4 頁
國學院大學の実習	7 頁
境外の天満宮・天神祭	(二)
クリスマス・長堀	8 頁
天満の天神さんと私 (3)	
福井北勝洞	
天満宮会館のリニューアル	
9 頁	9 頁

表紙解説

「菅公像」

大阪天満宮所蔵 紙本木版墨摺
縦三十七・六cm 横十四・七cm
江戸時代 松寿斎画 一幅
松浦 清(大阪工業大学教授)

墨一色で描られた木版の菅公像です。画面の上辺に宰府天満宮と枠取りるのは、太宰府天満宮ゆかりの菅公像であることを意味します。

装束は、垂纓の冠を被り、上衣は袍、下衣は指貫のようにも見えます。が、表袴に浅沓を履くのでしよう。下襲の裾を後方に折り曲げ、平緒により太刀を佩用し、右手には笏を執つています。下衣が指貫であれば、布袴のようにも見えますが、布袴は私的で特別な晴れの行事の装束なので、やはり表袴を着用する束帶と見るべきでしよう。

束帶は本来、宮中勤務服で、改まつた服装です。束帶に身を包む天神像は通例、室内の上置に端座する形式ですが、本図は戸外で、松の幹に身を預ける姿です。松と梅は天神ゆかりの樹木で、一方、本図を特徴づけるのは背景の波の表現です。岸辺には白波が立ち、ここが海岸であることを示しています。本図は何を意図した表現でしようか。

の詠嘆などのような関連があるのか疑問が残ります。

難解な歌であることを江戸時代の知識人も指摘していました。江戸後

期に活躍した医師で戯作者でもあつた森島(桂川)中良は、隨筆『桂林漫録』で、この歌を「アマ子ク人ノ

口ニスル所ナリ」とする一方「此神詠ノ解可ク解可ラザルヲ疑ヒシガ」と疑問を呈して、「近比菅家御集ヲ聞

ス。初テ眞面目ヲ見ル事ヲ得。意詞ト共ニ下ル」とし、『菅家御集』収載の歌ならば歌意も合点すると記しています。中良は『菅家御集』収載とする歌を引用して次のように述べています。『宵ノ間ハ都ノ空ニスミテラ

有明の月は十五夜を過ぎた月な

で、日没後しばらく時を置いて東の空に懸かります。時間が過ぎて西へと移動し、西の空に傾く頃に日の出となりますが、月は朝を迎えて西の空に白んで見えます。その状況について、東の都にいた頃と、左遷され西の太宰府に漂泊する今とを比較し、あれこれ思い巡らす訳です。

画面の水辺は、ここが太宰府であ

ることを示し、束帶は在りし日の都

での姿との対比の演出です。因みに絵師の松寿斎の詳細は不明です。

確かに、この和歌であれば、文意は理解できます。つまり「日が暮れて間もない時間帯に都の東の空に照り映えていた月なのだろう。今は時間も経過して朝を迎えたので、西の空に傾いている月の姿を、左遷された西の果ての太宰府にいる身で眺め

本図の和歌を意味あるものとすべく、初句「宵のまや」の「や」を反語として解釈するのは強引でしよう。宵の間に都の空で輝くことも出来ず、西の太宰府で白々と身を晒す有明の月の儂さに掛ける解釈です。

この歌を「宵乃間ハ都能空仁澄那可良心津久紫廻有明乃月」と表記する歌川芳虎が描いた「騎牛天神像(菅公像)」を社報第53号で紹介しました。合わせてご覧ください。

中良が『菅家御集』収載とする和歌については、滝沢馬琴も読本『頼月』などで、夕暮れ間もない「宵の間」

菅原道真公

千百二十五回大祭に向けて

長浜市曳山博物館の視察

去る八月一日、寺井種治宮司が、滋賀県長浜市の「曳山博物館」を訪問しました。

この訪問は、令和九年に迎える「菅原道真公千百二十五回大祭」に伴う

「収蔵庫兼宝物館」(仮称)建設の参考

にするためであり、三年前の大津市の三井寺(園城寺)の「三井寺文化財収蔵庫」に

続く視察です。

曳山博物館では、長浜曳山文化協会常務理事の北川賀寿男様から懇切丁寧にご案内、ご解説をいただきました。

曳山の実物を展示

同博物館は、大きな白壁の土蔵を思わせる特徴的な建物で、毎年四月に長浜市で行われる「子ども歌舞伎」でも有名な「長浜曳山祭」(ユネスコ無形文化遺産)を保存・伝承していくための博物館として、平成十二年に建設

されたものです。

曳山祭の「曳山(祭礼の山車)」は全部で十三基あり、そのうちの十二基が曳山の舞台で「子ども歌舞伎」をおこないます。同館では、曳山祭に出場する本物の曳山を四基ずつ収蔵し、三ヶ月交替で二基ずつを展示しています。

また、曳山や長浜の歴史・民俗や工芸などについての企画展を行う企画室もあり、さらには国内で唯一といふ曳山の解体修理を行うドックも併設されていました。このドックでは、長浜以外の山車などの修理も引き受けおり、その修理の様子は二階の覗き窓から見学できるよう工夫されています。



に三ツ屋根地車、さらには舟形地車「天神丸」などの大きな御神具・供奉具などを所蔵していますから、その展示の有無について考え、見せ方の工夫を凝らすための大きなヒントを頂くことになりました。

令和四年 天神祭

諸神事のようす

年は約三百人の徒步行列によつておこなわれています)。

本年は、祭場には各講社の代

コロナ禍の一昨年・昨年の天神祭は、主要行事は取りやめ、神事のみを斎行しましたが、本年は考えられ限りの感染防止に努めるなか、七月二十四日の鉢流神事、二十四・二十五日の本殿祭、二十五日の陸渡御、大川畔における駐輦祭を斎行いたしました。これらの神事の様子をご紹介いたします。

コロナ禍の一昨年・昨年の天神祭は、主要行事は取りやめ、神事のみを斎行しましたが、本年は考えられ限りの感染防止に努めるなか、七月二十四日の鉢流神事、二十四・二

十五日の本殿祭、二十五日の陸渡御、以下参列員が大祓詞を奉唱しました。



●二十四日 午前 肖宮祭

- ・御本殿にて宮司以下神職と、神童役・脇本寛太君らによって肖宮祭を奉仕、氏子総代と天神祭渡御行事保存協賛会の役員のみが参列しました。
- ・神饌に続いて、白木の神鉢（長さ二尺五寸）が神前に献進され、宮司が祝詞を奏上げた後、神樂が奏され、神前が奏され、神前
- ・鉢流之儀



●二十四日 午前

- ・神鉢を取り上げ神鉢によって御神慮をお伺いした後は、どんどこ船講が奉仕する「御鳥船」が神鉢を収納しました。



●二十五日 午前

- ・神鉢返納の儀

（例年は二十四日に行われています）



●二十五日 午後 本宮祭

- ・本殿において、宮司以下神職、神童、猿田彦、随身の各奉仕者、総奉



- ・宵宮祭終了後、宮司以下神職他、奉仕員と参列員は自動車に分乗して鉢流神事の祭場へ移動しました（例
- ・御鍵司は祓津物を、神童は神鉢を預けられました。御鍵司は祓津物を、神童は神鉢を預けられました。
- ・河中へ投じ、この間に歌師（祭員）と笛師（楽人）よつて鉢流歌が奏されました。

●本殿において、宮司以下神職、神童、猿田彦、随身の各奉仕者、総奉



行を勤められる天神祭渡御行事保存協賛会会長代行・栗原宏武様をはじめ、各講社、団体の代表者が参列して斎行されました。

例年はその他関係者の参列もあつて殿内には百五十人を超える人が参列す

るのですが、今回は大幅に人数制限を行い、個人を特定できる範囲で五十名以下の参列となりました。

宮司 祭員によつて御本殿の御扉を開き奉り、以下神職によつて神饌九台が供されました。



●お遷しの際に用いた「梅の瑞枝」は神童が捧持して供奉しました。



●例年の陸渡御の奉仕者は三千人を超えていましたが、本年は千人ほどに制限して御奉仕しました。



●駐輦祭の後は、還御祭を斎行しました。還幸之儀の行列は神社に帰着し、御鳳輦の御扉が開かれました。



この後、宮司は祝詞を奏し、神樂の後には宮司にあわせて総員拝礼を行いました。



最後に御本殿の御扉を閉じ奉り、予定の時刻をもつて諸祭儀は無事ご奉仕が相叶いました。

奉納された三ツ屋根地車は曳行されることなく、天神祭には境内に据え置かましたが、平成三年から、陸渡御に曳行されるようになり、現奉納されたものです。

奉納された三ツ屋根地車は曳行されることなく、天神祭には境内に据え置かましたが、平成三年から、陸渡御に曳行されるようになり、現在に至っています。

その後、令和の御代となりこれを記念として、天満市場地車講から新調の計画が発案されたのですが、コロナ禍の為に延期となり、ようやく今年の天神祭に向けてついにその計画が完遂されました。

一昨年の三月二十六日には手斧始め式が執行され、昨年の天神祭が終わった七月「十六日に旧地車の曳き納め奉告祭が斎行された後、完全復元新調の製作が進められました。



●百七十年ぶりに新調された地車

本年の供奉所役 奉仕者	神童 脇本 寛太
隨身	猿田 彦
牛曳童兒	柳野 真音
西原 隨	川村 耕毅
牛曳童兒	西原 瑞之輔
西原	茱璃

●駐輦祭では、悪疫退散祈願の祝詞が奏上され、神樂が奏されました。

江戸時代の天神祭・宵宮には、多くの地車が曳行されていました。最盛期となる安永九年（一七八〇）には八十四輶もの地車が、宮入りしたと記録されています。

しかし、幕末から明治期にかけて、その数は減少し続け、明治二十九年（一八九六）には、最後の一基となつた三ツ屋根地車が当宮へ奉納されました。この地車は、嘉永五年（一八五二）に製作され、天満市場から奉納されたものです。

奉納された三ツ屋根地車は曳行されることなく、天神祭には境内に据え置かましたが、平成三年から、殿前で奉納奉告祭を斎行、多くの参拝者に龍踊りとともに披露されました。この日は盛大な祝宴も行われました。この日は盛大な祝宴も行われました。



三ツ屋根地車 新調

そして今年六月二十四日には、天満市場において清祓式を行い神職の手によって曳綱が結ばれ、天満市場から天神橋筋商店街を曳行された新地車が当宮へ宮入しました。

天神祭の神賑—天満市場の三ツ屋根だんじり

かみにぎわい



ISBN 978-4-600-01036-2 2500円+税
ぶららでんま、Amazon等で取り扱い。

玲月流初代 箫笛奏者 森田 玲

た豪華絢爛の川御座船
をモデルとし、俄と呼ばれる滑稽寸劇を披露

するための移動式の芸能舞台であった。その発祥は、享保年間（一七一六～三五）の大坂

○二二）六月の地車新調にともない、現役を引退した。これに際して、私は、旧・地車に関する歴史文化の記録の必要性を感じ、大阪天満宮、大

阪天満宮文化研究所、地車講、天満



から明治期の地車の絵画史料を掲載。③「天神祭とは—天満宮の神事と神賑」大阪天満宮の由緒と、天神祭の全容を詳述。

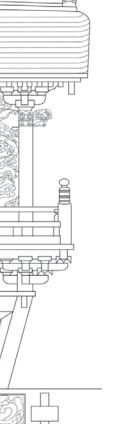
泉・瀬戸内に広がる地車文化圏を越え、広く日本の文化遺産としても位置付けられよう。

嘉永製作の地車は引退となつたが、良いかたちで次世代に受け継がれることを祈りたい。

数ある日本の祭の中でも屈指の熱量を誇る大阪天満宮の天神祭。その

参照^①。

⑦「だんじり囃子—天神祭の音風景」地車囃子の種類と役割、掛け声や龍踊りについて記述。



嘉永五年（一八五二）に製作された天満市場の地車は、令和四年（二〇二二）六月の地車新調にともない、現役を引退した。これに際して、私は、旧・地車に関する歴史文化の記録の必要性を感じ、大阪天満宮、大

阪天満宮文化研究所、地車講、天満



天満市場の三ツ屋根だんじり

（創元社、二〇二二）を

掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

⑥「市場地車の歴史—受け継がれる三ツ屋根構造」製作以来の出来事を年表で示し、祭当日の写真を



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

⑤「地車の隆盛—天満宮への宮入り番付」扱い手の実態と、百七十年にわたる地車の宮入りの記録。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

④「地車の誕生—川御座船をモデルとした俄の舞台」地車の成立過程と誕生時期の論考。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

③「地車の誕生—川御座船をモデルとした俄の舞台」地車の成立過程と誕生時期の論考。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

②「絵画史料—描かれた地車」江戸車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

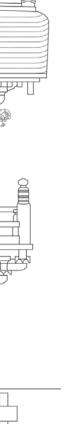
①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

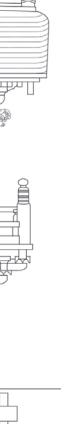
①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

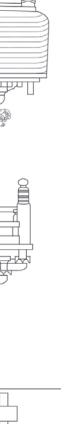
①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

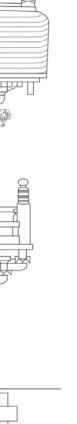
①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

（だんじり彫刻研究会編）

①「地車の姿—建築と彫刻の美」地車全体と各部彫刻の写真を掲載。



天満市場の三ツ屋根だんじり

<p

新刊紹介

高島幸次

『古典落語の史層を掘る』

史層を掘る

このたび当宮文化研究所の高島研究員が『古典落語の史層を掘る』(和泉書院)を上梓しました。

古典落語は幕末・明治期の政治・

社会意識や生活習慣をベースに作られ、登場人物の会話も当時の教養や常識を踏まえています。しかし、それから百年、二百年を経過した現代では、落語に仕込まれたリアルタイムの世相や風刺などは、落語の史層に埋もれてしまいました。

そこで同書では、現代では理解できなくなってしまった風俗や習慣などを掘り起こし、成立期の落語が持つていた本来の面白さを再現しています。目次は以下の通りです。

一 落語『佐々木裁き』の史層

二 落語『らくだ』にみる「死骸敵対」

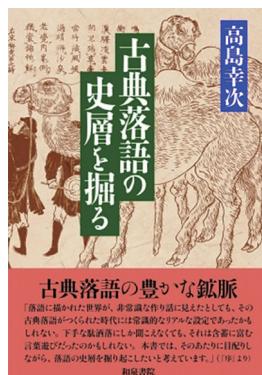
三 落語『鼓ヶ滝』と『餅屋問答』に

学ぶ

四 「無筆」の落語にみる笑い

五 水の都のお花見

六 上方落語による大坂の武士たち



●当宮付近の大道芸と寄席小屋

そして、右の全六章の後に補論として「明治中期の天満天神裏にみる大道芸と寄席―天満天神繁昌亭の史層」の論考が収録されています。

この補論では、明治二十年頃の当宮境内および大工門(北門)あたりの大道芸や寄席小屋の様子が紹介されています。具体的には、当時の境内で當まっていた「居合抜き」や「砂絵書き屋」、「シチヤラカボコボコ(飴壳り)」、「易者」や「放生亀売り」などを紹介し、大工門を出たあたりの、楊弓場や娘義太夫、歌舞伎、落語、講談などの小屋についても、その変遷が検証されています。

そして、この楊弓場と娘義太夫の小屋があつた地は、その後映画館・駐車場を経て、現在は天満天神繁昌亭が開かれているのです。時代が変わつても、土地の風土性は受け継がれるようですね。

実習は四泊五日の日程で行います。午前五時半に起床して境内清掃、国旗掲揚、朝挙を行い、その日の課題に取り組みます。講義では当宮の由緒や天神祭について学び、お守り授与所での参拝者対応や、本殿では御祈祷者の案内など、実際に現場の業務を体験します。また、儀式の作法も実技実習として行います、そして実習の終盤では、実習生だけで「実習終了奉告祭」の神事を御本殿で斎行します。当宮の実習で特別な項目は古典芸能鑑賞として「上方落語」

國學院大學の 指定神社実習を実施

八月三十一日から九月四日までの五日間、國學院大學神道文化学部三四年生の女子学生五名が、当宮で「指定神社実習Ⅱ」を受講しました。

平成二十年を第一期としてコロナ禍のため二年間は実施できませんでしたので、今年で第十三期となります。

神職を養成する機関としては東京の國學院大學や三重県伊勢市の皇學館大學などがあり、資格を取得するためには幾つかの実習を受講しなければなりません。当宮では國學院大

学の依頼により「指定神社実習Ⅱ」を実施しています。少子化の影響は全国の神社でも様で新人神職の確保が容易ではないのが現状です。そのような中で人材育成の場として指定されていることは責任を感じるところであります。



境外の天満宮・天神祭

今日は大阪心斎橋の地下街「クリスタ長堀」の展示コーナー「ギャラリー浪花百景」をご紹介いたします。

『浪花百景』とは、幕末の大坂の百ヵ所の風景を描いた浮世絵シリーズで、絵師は歌川国員、南粂亭芳雪、里の家芳瀧の三人です。ここに展示

されています。『天神祭り夕景』(国員)と、後期の天神祭の姿を垣間見ることができます。



特に本年は、天神祭の地車が百七十年ぶりに、江戸時代の工法を再現して新調されました。『天満天神地車宮入』の描く地車は、新調された三ツ屋根の地車とは違った型のものですが、往時の地車と現在の地車を見比べてみるのも面白いかもしれません。

大阪天満宮献詠 風月社 令和四年 下半期秀歌

大花火たた中をゆく川渡御の

奉拝船にわれもつらなる

幹事 佐野 秀子

去年と言ふあまたのこと

思ひつつあはすもろ手に

初日影さす

寒き朝薄ら氷踏みて学舎へ

大阪メトロ・長堀橋駅

を出てすぐ、クリスタ長堀

西側の中二階です。隠れ

たギャラリースポットです

が、近くにお立ち寄りの際

には是非、ご覧になられて

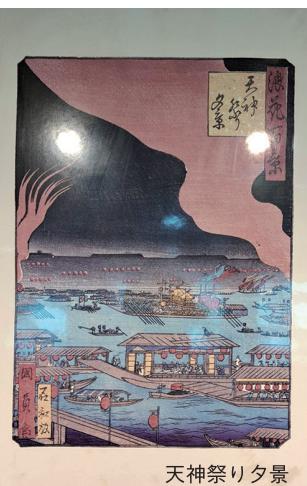
は如何でしょうか。

東大阪 中山 里江

されているのは、大阪歴史博物館所蔵の原画を陶板画にしたもので、第一図『天神祭り夕景』(国員)と、第二十二図『天満天神地車宮入』(芳瀧)は、江戸時代後期の天神祭の姿を垣間見ることができます。



天満天神地車宮入



天神祭り夕景

冷房の部屋にこもりて黙祷す
めぐりめぐりて八月の空

神戸 鈴木 敬子

音もなく簾をゆらす秋の風
庭の草木に来し方思ふ

大阪 中瀬 央子
大北 滋保

子供には大きく見えし窓ガラス
姉弟で掃除今は古民家

大阪 家治 綾子

羽衣をまとふがごとく秋の雲
水色の空見え隠れする

大阪 乾 恵子

春浅き朝の静寂を吹く風に
触るれば優し水仙咲きぬ

大阪 乾 恵子

門口を入ればなつかし柿若葉
父母ありし日の姉妹もそろう

東大阪 北岡 由紀子

おこそかに雅楽の音色御神樂に
いにしへ人の思ひしみゐる

大阪 伊藤 凉子

庭先に紫煙くゆらす父の背を
小春日の差しあためをや

大阪 八尾 南口 一二美

五月雨に谷うちしめり緑栄え
何に向かひて河鹿なくらむ

長野県 坂井田 札子

散る花の姿にも似て若鷺の
何を憶ひ逝く前の戦に

八尾 忠津 清治

天満の天神さんと私(3)

香道閑院流十一代家元

福井北勝洞



当家では四代に渡り余香祭・秋思祭に於いて献香のご奉仕をさせて頂いております。先代までは旧老松町に育ち、生家は享保年間から香料商を営んでいた氏子の家系でもあります。

余香祭は昭和二年、当時の種臣宮司さんが藤里好古氏（郷土史家）を使者として祖父（九代家元）に献香を依頼された事に始まります。この種臣宮司さんの卓見により菅公の御命日（二月二十五日）、余香祭として初めて神事にお香が炷かれる事となりました。

昭和五年、祖父はこの余香祭の創始が刺激となり食満南北（歌舞伎作）者）と音頭を取り、小林一三（阪急）、白井松次郎（松竹）、花柳章太郎（役者）、菅楯彦（日本画家）、鍋井克之（洋画家）、岸本水府（川柳作家）ほか当時

は中々このような真似はできません。香道界に於いて神仏に香を炷くことは環境も違つて良き時代、当代では国内の約百箇社寺に於いてご奉仕しました。祖父の代より献香の儀式をはじめ「全ての香事はご奉仕」とし、当代でも家元の傍ら自営業を営んでおられます。

家元嗣繼承の以前に勤務していた

航空会社では、当時婚礼の際に系列ホテルで挙式することが慣例となつております。室内も私も羽田空港

をベースとする社内結婚にも拘わらずこの慣例を絶ち、天満宮会館にて挙式しました。披露宴では現宮司さ

幸甚な宴が今も想起されます。

事業の都合でご当地を離れておりますが、天満の天神さんは当家のルイです。

天満宮会館 広報室だより ① 「梅の間」&「婚礼サロン」の リニューアル



打合せをする「婚礼サロン」もこの度リニューアル。以前よりも一回り拡大した空間スペースで、一度に十組のお客様がサロン内でお話し可能。こちらはシックで落ち着いた雰囲気の中にも、モダンなイメージが散りばめられたシンプルでクールな空間です。

ご結婚をお考えの皆様は是非、事前ご予約のうえお気軽にお越しください。

このたび天満宮会館では「梅の間」をリニューアルいたしました。装いも新たな「梅の間」は、ご新郎ご新婦お二人で歩み紡いだお時間に祝福を贈る「幸せいっぱいの場所」。古き良き時代の雅やかな華やかさと現代のシックな意匠が散りばめられ施された素敵な空間は、四十名様までのご披露宴やご会食にジャストフィット。入口にはお迎え暖簾がかかり、日本庭園の美の情景を連想させる jintansu（会場など、優雅な和の雰囲気を醸し出す趣ある会場）です。

また、ご新規のお客様やご新郎ご新婦お二人と御結婚式に向けてのお

神 樂 教 室



平成十四年の「菅原道真公御神退千百年大祭」の奉祝祭に、神楽「紅わらべ」を奉納させて頂くべく、平成十三年より氏子崇敬者の子供たちとお稽古を重ねて御奉納を致しました。



神楽教室は神楽を奉納するだけではなく、天神様の御加護を頂き、日本人として国旗国歌、伝統文化、精神、誇り、和を学ぶ空間としてこれからも生徒と共に歩んで行きたないと考えています。

その子供も今や社会人と成り、神楽を舞う厳しさの中で、礼儀作法を知らず知らずに学んだことを打ち明けに来ます。神様に額すくこと、神様の前での所作、神様の前での言動全てが今に生きている事に喜びを感じ取る人もいます。中には他社で神楽の指導者となり伝統文化を受け継ぐ生徒もいます。

納致しました。

その子供も今や社会人と成り、神楽を舞う厳しさの中で、礼儀作法を知らず知らずに学んだことを打ち明けに来ます。神様に額すくこと、神様の前での所作、神様の前での言動全てが今に生きている事に喜びを感じ取る人もいます。中には他社で神楽の指導者となり伝統文化を受け継ぐ生徒もいます。

浪速菅廟吟社詠草

雪枝 松村暁二撰

四月課題 上巳桃花

苔菴 揚田崇徳 三原市

桃紅李白踏青裏 碧水滔滔繞美田
風穩鄉村日午天 重三佳節百花鮮

《訓読》風穩やかな郷村日午の天、
重三佳節百花鮮なり。桃紅李白踏青
の裏、碧水滔滔として美田を繞る。

《通釈》村に吹く春風、穏やかな昼
下がり、重三(三月三日)の節句は沢
山の花が咲き乱れて鮮やかである。

桃の紅い花 李の白い花を愛でて青
草を踏んで歩く、美しい川の水は美
田に満ちている。

五月席題 陂塘柳絲

微水 上田清文 東大阪市

柳堤人不見 映水翠絲條
賞景春禽囀 風流落日搖

《訓読》柳堤人見えず、水に映ず
翠糸の条(えだ)。景を賞せば春禽さ

その後もお稽古を続けたいとの声
に、今まで二十一年の月日を経て
お稽古に精進しています。当初五歳
から二十歳までの男女問わず奉納を
目指し、泣き笑いと共に、一年しつ
かりと稽古を積み重ね無事立派に奉
なれました。

六月席題 農郊蛙聲

柏春 中島結樹 横浜市

鼓吹連朝夕 南風薰綠疇
孰知郊里阜 曲水抱禾流

七月課題 舟中放歌

美舟 石川繭 高松市

蒼波白浪釣魚舟 舉棹一聲漁唱流
映水月輪明似鏡 潮香夏夜興偏幽
《訓読》蒼波白浪釣魚の舟、棹を擧
げて一声漁唱流る。水に映ず月輪
明鏡に似たり、潮香る夏夜興偏に
幽なり

《通釈》蒼い波、白い浪がひかり
えずり、風流れて落日揺らぐ。
柳の堤には人影はなく、柳
の枝は水に映じている。美しい景色
のなかに鳥がさえずつていて、風流
れて落日が揺れているようだ。

第十回 天神天満阿波おどり

し踊り」が披露され、第二部として奉納演舞として演奏されました。

八月二十一日午後、三年ぶり第十回となる「天神天満阿波おどり」が、

天神橋筋商店街および当宮境内で開催されました。

この行事は、天神橋筋商店街連合会と天神橋筋四番街商店街振興組合が中心となって、徳島県関西本部・大阪シティ信用金庫・全日本不動産協会大阪府本部北支部・㈱ブレインズ・キッズプラザ大阪・金欄会高等学校中学校・大阪天満宮からなる実行委員会（盛岡淑郎委員長）が主催者となり、関西阿波おどり協会に所属する連などの参加によって行われたものです。

これに先立つ十七日には、天三おかげ館において十周年記念館が開設され、写真パネルの展示や特産品の販売が行われました。十九日には、十周年記念前夜祭として北区民センターで金欄会高等学校・中学校の吹奏楽部の演奏にはじまって、大阪天水連の阿波おどりが披露され、阿波おどり教室も開催されました。

当日の二十一日には、北区民センター前広場での記念セレモニーに続いて、第一部として天神橋四番街商店街・三丁目・二丁目において「流



天満宮スカウト活動日誌

◆天満宮スカウト合同行事

四月 入隊上進式・フラリアップ報

告式、昇殿後各隊・各部門ごとに任

・神戸ちるど連・深雪連・しき連

・神戸六甲連・西明石海峡連・大仏

連・てんばらみとら連の十一連、計

二三六人の他、この日のために募集された「にわか連」なども参加され

ました。

五月 ブラウニー部門 ピクニック（中之島公園）、テントでシユラフ体験

六月 天神祭鉢流神事、ボーカスカウト・ガールスカウト各代表一名が参列

◆ボーカスカウト大阪九十八団

四月 ビーバー隊 工作（紙相撲）

カブ隊 プラネタリウム見学 ボーイ隊 国旗掲揚とナイフの使い方

五月 ビーバー隊 ハイク（鶴見緑地公園） カブ隊 カブブックとゲーム

六月 ビーバー隊／カブ隊／ボーイ隊 神S合同行事（多治速比売神社）、カブブックとゲーム

七月 ビーバー隊 テント設営 炊事

地公園） カブ隊 カブブックとゲーム

八月 ビーバー隊 テント設営 炊事

六月 ビーバー隊／カブ隊／ボーイ隊 神S合同行事（多治速比売神社）、カブブックとゲーム

七月 ビーバー隊 テント設営 炊事

八月 ビーバー隊 テント設営 炊事

九月 ビーバー隊 海水浴（ア

ジユール舞子） ボーイ隊 隊干ヤンプ（若山神社） ベンチャーフィヤンプ下見

八月 ビーバー隊 西猪名公園ウォーターランド カブ隊 ゲームと

キヤンプファイヤー（境内）、たこ焼きパーティ ボーイ隊 隊キヤン

プ（境内）・船釣り（加太港） ベンチ

八月 ブラウニー部門 （在）ミニ縁

日ごっこ ジュニア部門 （在）お金

の大切さを学ぶ シニア・レンジャー

一部門 書写会に参加

※（在）は、在宅プログラム

ヤー隊 一人用BBQコンロで炊事
各月 ベンチャーフィヤンプ（個人）進級に取り組む ローバー隊 各隊活動支援

◆ガールスカウト大阪府八十一団

四月 ブラウニー部門 お裁縫にト

ライ デュニア部門 パトロール章

七月 天神祭鉢流神事、ボーカスカウト作り シニア・レンジャー部門 飯盒炊爨

八月 入隊上進式・フラリアップ報告式、昇殿後各隊・各部門ごとに任命式等

九月 ブラウニー部門 パワースポット

探そう（住吉大社）、テント設営

シニア・レンジャー部門 テント設営撤営、ブラウニー引率

六月 全部門 神S合同行事（多治速比売神社）、テント設営

七月 ブラウニー部門 クラフト

ラフト ジュニア部門 おにぎりをつくるう シニア・レンジャー部門

八月 全部門 梅シロップを作りLINEにアップ

九月 ブラウニー部門 七夕飾り作り、（在）お手伝いプロジェクト

ユニア部門 カレーを作ろう、お金の旅 シニア・レンジャー部門

十月 ブラウニー部門 夏期キヤンプ計画

十一月 ブラウニー部門 （在）ミニ縁

日ごっこ ジュニア部門 （在）お金

の大切さを学ぶ シニア・レンジャー

一部門 書写会に参加

※（在）は、在宅プログラム

社務所 電話番だより
よくあるお問い合わせ

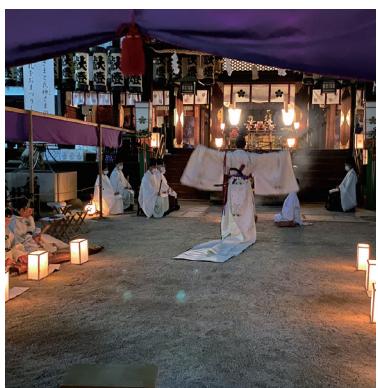
二度の『お月見』

当宮では、毎年の中秋の名月には「秋思祭」という観月祭を斎行しています。ビルに囲まれた境内だからこそ、中空高く輝く名月の美しさを再認識する機会ともなっているようです。

菅公が御所の清涼殿でお詠みになつた「秋思」と、太宰府の配所で詠まれた「九月十日」の二篇の漢詩に由来する神事ですが、今年の中秋の名月は、この九月十日に当たりました。

八月の十五夜である中秋の名月を賞でるようになったのは、唐の時代（六一八〇九〇七）以降のようです。この習慣が日本に伝わったのは、平安時代の貞觀年間（八五九〇八七）頃といい、貴族社会において、詩歌や管弦などによる宴会などが行なわれたようですが、まだお供えもの習慣はなかつたようです。

その後、中国の月見ではお供えのをしたり、月餅を贈つたりする習慣も生まれ、これが日本にも伝わってだんだんと庶民の間に広まつたのです。東アジアでは旧八月十五日に里芋



江戸時代後期になると、お月見に月見団子などのお供えものをするようになります。このお団子の形は、江戸の球形に対し、上方（京・大坂）は里芋型でした。現代でも大阪周辺には里芋型の月見団子が多いようです。

の収穫祭をすることがあり、日本でもその日に里芋を食べる習慣がありました。この里芋をお月見にお供えするようになつたことから「芋名月」の名も生まれました。

江戸時代後期になると、お月見に月見団子などのお供えものをするようになります。このお団子の形は、江戸の球形に対し、上方（京・大坂）

は、本年の夏に期間限定で授与していいたものです。また新たな御朱印にご期待ください。



『絵馬型 切り絵の御朱印』

本年九月初旬から『絵馬型切り絵の御朱印』の授与を始めました。天神様ゆかりの「撫で牛」と「梅の花」を散らした当宮らしい御朱印です。



ところで「二夜の月見」をご存知でしょうか。中国から八月の十五夜の御月見が伝来したことに伴つて、日本では独自に九月の十三夜にもお月見をする習慣が生まれ、この二夜の月見をするのがよいとされていました。ちなみに、今年の十三夜は十月八日にあたります。

一昨年来のコロナ禍は、当宮にも大きな試練となっています。今年の夏も、厳しい制約下に三年目の天神祭を斎行しました。当社報でも逐次にご報告しております通り、様々な規制に対処しながら、神事や神賑行事のありかたを模索する日々でしたが、当宮の千年を超える歴史を振り返れば、戦国時代や幕末維新期にはとか来年に繋げたいとの思いから陸渡御を執行しましたが、大過なく安らぎました。

今年は、このような世情でもなんとか来年に繋げたいとの思いから陸渡御を執行しましたが、大過なく安全に斎行されたことは神様のお蔭によることと存じ、あらためて感謝するところでございます。

広報室だより②

新しい「御朱印」二種

【鉢流神事の御朱印】

天神祭の鉢流神事を模した御朱印は、本年の夏に期間限定で授与していいたものです。また新たな御朱印にご期待ください。

編 集 後 記

大阪天満宮社報
てんまでんじん 第82号
発行人 寺井種治
発行所 大阪天満宮社務所
〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁11-8
TEL 06-6335-30025